

今日も「ライフ&シニアハウス港北」なう

ツイッター(簡易投稿サイト)で「ライフ&シニアハウス港北なう」というつぶやきを発見。つぶやき主は、「ライフ&シニアハウス港北」の介護フロアに入居している木村保子さん(84歳)の次男で医師の、木村明さん。ブログでもハウスを紹介してくださっていました。常に保子さん本人の意思を確認する明さん。このページは親子インタビューでお届けします。



週に1回は保子さんの居室を訪れる明さん

明さん 母は広島で一人暮らしをしていましたが、二〇〇五年の春、トイレで急に立ち上がれなくなり動けずにいたところを偶然発見され救急

搬送されました。退院後も一人暮らしを続けるのは心配ということで、妻がこのハウスを探したのです。妻の母はよその有料老人ホームに入居していたのですが、そちらと見比べて「港北」の雰囲気がいいとすすめてくれて…。滋賀に住む私の兄は、定年退職したら広島の実家に帰り母と同居すると言いましたが、母に「私の近くのホームに入るアイデアもあるよ」と提案したところ「そうしたい」と言いました。その後、ハウス長が広島まで説明に行ってくださいり再度入居の意思を確認したところ気持ちが変わらなかつたので、入居一時金は本人の貯金から出し五年で償却することも本人承知の上で、入居に至りました。

——暮らしはいかがですか？

明さん 非常にいいケアを受けています。清潔にしてもらっていますし、母の表情も悪くない。ね、広島に帰りたいと言わないよね？

保子さん はい、なんともないです。すぐに慣れるタイプです。

明さん 私は週に一度、ハウスに来ています。行事やイベントは、私もほぼ毎回参加していますね。

——保子さん、ハウスで印象に残っているイベントはありますか？

保子さん なにもないです。すぐ忘れすから(笑)

明さん そうなんです。私が来たことも忘れるので日記帳に書くようにしてもらっています。

——では、明さんが来てくれるときがいちばん楽しいですか

保子さん ふふふ…。まあ、そういうことにはして置きましようか。

明さん ケアプランには買い物や散歩を取り入れてもらっているようです。ブログにはなんて書いたかな。「スタッフのやる気があるところがいい」と書いたと思います。スタッフが描いてくれた母の似顔絵も載せました。入居者の顔は皆、きれいに描いてありますよね。本物よりもずいぶん若く描いている…

保子さん あははは(笑)

明さん 最近になり偶然、知り合いのドクターのお母さんも「港北」に入居されたことを知ったのですが、その先生も他のホームと比べてここは雰囲気がいいと言っていました。

ハウスにお願いしたいことは、もし入院などしてもハウスに戻り、最期はここで看取ってほしいということです。運営懇談会に出れば説明を聞けるのかもしれませんが、「こういう状態の場合はハウスでこのよう

対応が可能」といった看取りまでの具体的なビジョンを確認したいです。ちなみに私は治療や無理な延命を希望しません。本人はどうですか？

死にそうになったら点滴や鼻からの栄養を入れてほしい？

保子さん いえ、自然がいいです。

明さん 母は私の父、つまり自分の夫が肝臓がんで亡くなる最期、思い切って点滴をしないという結論を出した人。本人の言うとおりの方針でいきましよう。今、病院も長い入院が難しいし、かといって往診する医師も増えない。医師の責任も大きいと思います。家族のほうも、「呼吸が止まる瞬間に医師に立ち会ってもらわないと気がすまない」ではなく、死亡診断書を書くのは次の日でもいいというぐらいのコンセンサスが国民の間でも必要だと思いますね。



イベントのゲームに参加して入居者を笑わせる明さん(右)